

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006--2009

課題番号：18330094

研究課題名(和文) フランス流通構造の変革と中小小売業の将来

研究課題名(英文) Dynamic French Distribution and Perspective of Small & Medium retailers

研究代表者

田中道雄(TANAKA MICHIO)

大阪学院大学・経営学部・教授

研究者番号:10248263

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：フランス、中小小売業、流通政策、マルシェ、ラファラン法、FNSCMF

1. 研究計画の概要

我が国の流通政策にも大きな影響を与えてきたフランス流通は、近年の流通国際化と低価格化など、さまざまな課題を抱え、その構造を大きく変えつつある。本研究においては、まずフランス流通構造がどのように変化しているかを明らかにすると同時に、その中で中小小売業がどのように適応していくかについて、その将来像を探るものである。

2. 研究の進捗状況

本研究においては、大きく3つの分野で研究を進めてきた。

(1) フランス現地調査を通しての資料収集ならびに人脈の形成

本研究では、フランス現地の業界団体(FNSCMF:フランスにおけるマルシェの全国団体であり、毎年、我々は団体事務局長と会合を持っている)、大学(エクサン・プロヴァンス大学ジル・パッシェ教授ならびにボカ・クレール助教授等:マーケティング関連)、経営関係の研究所(Dia-Mart:研究ならびに実践で著名なC.デュクロック所長)らとの継続的な接触によって、文献資料では把握できにくいフランス流通の実態把握に努めてきた。

(2) フランス流通セッションの開催

フランス現地調査による実態把握と並行して、我が国における代表的なフランス流通研究者ならびに流通を取り巻く都市計画等の研究者に呼びかけ、研究の初年度よりフランス流通セッションを年に1回開催してきた。

2008年の段階で、フランス流通セッションへの参加者は12名となり、例年同様、2008

年10月に行われたセッションでは、各自が1テーマを発表し、フランス流通研究水準の向上を図っている。

(3) 研究内容の対外的発表の充実

フランスの流通という限られた分野を対象とするだけに、こうした研究結果をできるだけ公刊することで、広く研究の発展を図るよう努力している。

すでに、2007年12月にこれまでの成果を研究代表者田中道雄が『フランスの流通』(中央経済社)という形で発表し、現在もなお、フランス流通セッション参加者12名の共著『仮題：フランスの都市と流通』(中央経済社)を2009年度中に出版の予定である。

3. 現在までの達成度

自己評価

当初の計画以上に進展している。

すでにフランス現地関係者との関係強化、我が国フランス流通関係研究者との連携の成果、および研究内容の発表等、当初の計画をはるかに上回るペースである。

4. 今後の研究の推進方策

もとより、本研究のような内容は、今回の期間にとどまることなく、今後とも継続して実施しなければ、本来の意味での成果は一時的なものにとどまる。本研究においては、残された研究を肅々と進めるとともに、将来に向けて若手研究者とフランス現地人材との接触を深め、もって持続性のある研究システムを構築したいと考えている。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

1. 李為、「フランスの文化政策と都市文化資本」、『関西実践経営』、査読無、第36号、2008年、pp.67-76
2. 白石善章、「比較流通論の方向性について」、『熊本学園商学論集』第14巻第2・3号、2008年、pp.107-117
3. 田中道雄、「歴史的経緯にみるフランス流通」、『関西実践経営』、査読無、第33号、2007年、pp.1-10
4. 田中道雄、「EUにおけるフランス流通」、『関西実践経営』、査読無、第32号、2006年、pp.1-14
5. 田中道雄、「フランス流通の現状と動向」、『関西実践経営』、査読無、第31号、2006年、pp.1-12

[学会発表](計 3件)

1. 田中道雄、「フランスのハードディスカウント」、フランス流通セッション、2008年10月、大阪学院大学。
2. 李為、「フランスの文化政策と都市文化資本」フランス流通セッション、2008年10月、大阪学院大学。
3. 田中道雄、「フランスの流通」、日仏経営学会、2008年4月、専修大学。

[図書](計 2件)

1. 田中道雄、中央経済社、『フランスの流通』、2007年、237ページ。
2. 李為・白石善章・田中道雄、同文館出版『文化としての流通』2007年、192ページ。